

# 働き方改革の推進(管内実践事例)

## 学校行事等の整理・明確化

○会議や各種行事等の業務仕分けの際に、措置の視点を明確にして、その可否について算定した全体効果(時間)をふまえて吟味する。

### ☆措置(視点)を明確にした吟味(国東市立安岐小学校)

《措置の視点》

- ①やめる…廃止
- ②へらす…統合、結合、選別、回数、頻度、時間・期間、種類、規模、抽出
- ③かえる…順序、手順、方法、場所、分担、時期、意識
- ④簡単にする…省略、簡素化、単純化、効率化、省力化
- ⑤それ以外のアイデア

### 業務仕分けの例

検討対象	措置	説明等	全体効果(時間)	検討した結果(◎○△×)	結果
職員集会	①効率化	集会は「風になら子どもの社会」のみとし、通称事項は「Te-Compass」の検索機能を利用する。職員は、各自で検索結果を確認し、不明な点は担当者に尋ねる。	200	16:00~16:15 30分 20人×30分 =600分(10時間) 削減分(40分×20人) =800分(13時間30分) 削減分(200分) =3時間30分	◎
職員会議	②へらす ③かえる	発言や質問に対する答えを要最小限にする。 1問に対して2や3で答えない。	40	15:00~16:30 15分×4人×2 =120分(2時間)	○
会議等	③かえる	遅れる場合は事前連絡をすることを徹底し定刻開始を守る。放課後の時間は埋められているので本道に専らいたい。			◎
プロジェクト会議	④簡単に	年度初めにすること、毎月1回を会議ですることを廃止し、特に年度初めは議題が変わるので省略。	42	45分間 15分×4人×2 =120分(2時間)	◎
プロジェクト会議	③かえる	メンバーに昼・中・高が必ず入るようにする。半年報告の中で話し合いができるため、職員会議で議題設定を省略する。			△

検討した結果(◎○△×)をもとに実施していく

《期待される効果》  
○視点を明確にすることによる業務の客観的な精査  
○全職員による業務改善に対する意識改革

## セルフマネジメントを高める目標設定

○時間外在校時間の目標値設定を、短期で各教職員が見つめ直すことのできる達成指標として設定することにより、当事者意識の高い働き方改革につなぐ。

### ☆達成指標の工夫例(別府市立鶴見台中学校)

「超勤時間を週当たり9時間以内にする」  
(月火木金各2時間、水1時間)

#### ◇実践の特徴

- ・法令等を根拠に週当たりの目標時間を設定。
- ・週当たりのスパンにすることで、時間外在校時間を週9時間に収めるためにどうすれば良いかを各教職員が考えやすい。
- ・タイムマネジメントを自分事としてとらえ、見通しを持った業務の推進につなげている。

《期待される効果》  
○勤務時間を意識した取組推進の充実  
○時間外在校時間の減少

## その他参考となる取組

- 意識改革を促すキーワード(合い言葉)の共有  
・「まじめに無理をしない」「段取りズム」…
- 自己申告制月2回の定時退庁日設定  
・全体での週1回の定時退庁日に加え、各教職員が月2回定時退庁日を設定することで、各自の見通しをもった業務推進を活性化。
- スクールサポートスタッフ(SSS)活用の工夫  
・SSSが、校内の各教室をまわり、直接先生方と話しながら、対応可能な業務を共有・支援。そうすることで、校内全体の連携が図られ、どの学級にも支援が行き渡る体制が整えられる。